



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2020-21 クラブテーマ **例会を楽しもう**



2021. 5. 31

(短縮例会)

No.2381 No.31



会長挨拶

三条南ロータリークラブ
会長

銅冶 康之

こんにちは。きょうは前回の続きで応神天皇の征服の話をしていきます。

まず、中国の史書、旧唐書(くとうじょ)と唐会要(とうかいよう)に「小国日本が倭国を併合した」と応神天皇の征服について書かれています。ここで注意したいのは伽羅国のことを日本と言っていることです。

日本書紀に日本という国名が出てくるのが雄略8年(464年)、新羅王が任那王に「高句麗王が攻めてきたので助けを日本府の将軍たちにお願ひします」と言ったとの記載が初めてです。中国に倭国は日本と名前を変更したと伝えたのは天智8年(669年)で、200年も前から任那を日本と呼んでいました。

伽羅は西暦1世紀ごろには弁辰(べんしん)と呼ばれ、2世紀からは駕洛国(からこく)となり、359年首露王が伽羅を建国してから、任那、任那日本府、日本と呼ばれました。任那の語源は首露王の王妃が初めて船で来着した「主浦(みなえ)」という港にちなんで「みなえ」を「みまな」と呼び国の名前としました。

話を戻して、大和に入った応神は、仲哀天皇(海部氏系図では丹波大矢田彦命(たにはのおおやたひのみこと)亦名を健振熊彦称(たけふるくまのすくね)を殺しましたが、その本家の子ども丹波国造海部直都比(たんばのくにのみやっこあまへのあたひ)を丹波の地方豪族へと左遷しただけで、海部氏の分家の物部氏(ものべうじ)、和珥氏(わにうじ)、石上氏(いそのかみうじ)、尾張氏(おわりうじ)、磯城氏(しきうじ)、葛城氏(かつらぎうじ)はそのまま残り、日女命の血統を持っているこれらの分家から応神一族は妃を娶ることにより国の安泰を願ひました。

応神天皇の後には、仁徳(にんとく)、履中(りちゅう)、反正(はんせい)、允恭(いんぎょう)、安康(あんこう)、雄略(ゆうりやく)とつづきますが、宋書倭国伝に421年倭王讚(さん)に武帝が官位を授けたとの記載が出ます。

讚は仁徳天皇のことで次の倭王珍(ちん)履中天皇は宋の武帝に対し百濟、新羅、任那の安東大將軍倭国王を認めてくれと願ひしました。

このとき、倭国は韓半島の南半分を征服していたと考えられています。つまり応神が任那から出て倭国を征服した後韓半島に戻って韓半島の南半分も征服してしまったのです。

◆出席：44名中27名

◆今年度の通算出席率：82.75%

◆今週のメイクアップ：

5月24日(月)家庭会合(例会場にて)▷平松修之君、木村讓君、野崎正明君、松崎孝史君、長谷川直哉君、荒澤威彦君、石山昌宏君、熊倉高志君、加藤一芳君、渡辺和宏君、太田義人君、吉沢栄一君、桑原朋子さん

◆幹事報告：石山昌宏幹事

◆高尾茂典ガバナーエレクトより【2021-2022年度地区研修・協議会の御礼状】

◆2020-2021年度地区大会実行委員会より【記録DVDの御案内】

4月18日に開催された地区大会の記録DVDが完成し、クラブへ2部送付されました。事務局までお尋ねください【日本のロータリー100周年を祝う会記念式典・祝賀会】無観客による開催の様、アーカイブ動画は2週間程度視聴可能です



<https://youtu.be/Bb-7UMQNjtU>



食中毒に注意!

お弁当は持ち帰ったらすぐにお召し上がりください



ロータリーは
機会の扉を開く

国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク(ドイツ)
第2560地区ガバナー 佐藤 真(村上岩船)
第4分区分ガバナー補佐 丸山 健(吉田)
会長 銅冶 康之
幹事 石山 昌宏
SAA 丸山 智

事務局
〒955-8666 三条市旭町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL0256-35-3477
FAX0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL <https://www.sanjo-minami.jp>

